

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月 27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0174700815		
法人名	株式会社アルムシステム		
事業所名	グループホーム広尾ふれあい館1・2		
所在地	〒089-2446 北海道広尾郡広尾町字紋別19線49-17 (電話) 01558-9-5022		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年11月11日	評価確定日	平成21年1月27日

## 【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <del>平成</del>	15年 3月 31日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.7人

### (2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	1 階建ての	1~2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	14,500~19,800 円
敷 金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 25,200 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 1ヶ月当たり 1,000 円
	または1日当たり 700 円		

### (4) 利用者の概 (10月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.6 歳	最低 73 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	広尾町国民健康保険病院・なかの歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、自然豊かな広尾町の小集落に位置し、利用者は地元や近隣町村の住民が多く、家族や馴染みの住民の訪問も多い恵まれた環境にある。職員は「家庭的な環境の中でその人らしい豊かな生活ができることを支援する」ことを盛り込んだ理念の下、慣れ親しんだ地域の中で「ゆっくり、一緒に、楽しく」生活することを目指しながら、日々のケアサービスに取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題であった家族等への報告については、毎月家族に利用者の生活状況や金銭管理について報告するよう改善している。また、施錠については、居室には鍵をかけておらず、また、玄関は安全上、状況に応じてかける場合もあるが、家族の了承を得た上で行うなど、配慮している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価に取り組んでおり、職員間で協議して管理者がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1度、家族代表、地域住民代表、地域包括支援センター職員等を構成員として開催している。会議では、事業所から報告等を行うほか、推進委員からの意見で地域のボランティア組織ができ、定期的な事業所への訪問活動が実現されるなど、積極的に意見交換を行い運営に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭出納等について、毎月家族に報告している。また、家族が訪問時などに、気軽に意見・苦情等を伝えやすいように、職員は雰囲気づくりに配慮している。家族から意見等を得た場合は、職員間で協議するとともに日常の関りの中で速やかに対応しており、運営推進委員会に報告して意見をj得るなど、改善に取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p>
重点項目④	<p>事業所の避難訓練や夏祭り等に、地域住民の参加を得ているとともに、町内の老人会の行事に利用者が参加するなど、地域と連携を図りながら交流に努めている。また、近隣の保育園や小・中学校の行事にも積極的に参加している。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目		○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境の中でその人らしい豊かな生活ができることを支援する」ことを盛り込んだ事業所独自の理念の下、慣れ親しんだ地域の中で「ゆっくり、一緒に、楽しく」生活することを旨しながら、日々のケアサービスに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、会議や研修を通して理念の確認をするなどし、理念の共有に努めており、利用者一人ひとりの生活リズムに合わせたケアの実践に日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民と、散歩や買い物時に日常的に挨拶を交わすなど、交流を図っている。また、町内会、老人会、保育所等の行事にも、積極的に参加し、地元住民と交流を深めるよう努めている。	○	今後は、地域住民に気軽に事業所に立ち寄ってもらったり、事業所の行事に参加してもらおうよう、町内会や老人会に働きかけることを期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解しながら取り組んでおり、自己評価での気づきをケアに活かすよう努めている。また、外部評価の結果は、運営推進委員会や家族に説明し、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、家族や地域住民代表、地域包括支援センター職員等を構成員として開催し、事業所から報告等を行うほか、積極的に意見交換を行い運営に活かしている。また、推進委員からの意見で地域のボランティア組織ができ、定期的な事業所への訪問活動の実現に結びついている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の介護保険担当者や福祉担当者と必要に応じて行き来し、情報交換をしたり、助言を受けるなどしながら、ともにサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所だよりを年4回発行し、利用者一人ひとりの生活状況や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、定期的に家族に報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や不満、苦情等についての相談窓口を設けている。また、家族からの意見や相談事項は、運営推進委員会に諮り、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は必要最小限に抑えるよう配慮し、利用者や家族が安心して支援を受けられるよう努めている。また、職員が代わる場合は、他の職員が利用者への不安を解消するよう努めている。		


外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年2回の研修を行い、管理者は参加している。また、職員は初任者研修を受け、自己研鑽に努めている。	○	地理的に外部研修を受けることが困難ではあるが、今後は、外部研修への参加機会の確保とともに、参加時の職務免除などの配慮を検討するなどの取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、母体法人の研修等で他事業所と交流する機会を持ち、職員にも報告している。地域のグループホーム協議会に加入しているが、同業者と交流する機会を持ったり、勉強会を行うまでには至っていない。	○	グループホーム協議会等を通じて、同業者と交流する機会や勉強会へ向けた取り組みを期待する。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、職員が自宅を訪問し本人や家族等と相談するとともに、事業所の見学や体験を通して事業所の雰囲気に馴染んでもらうよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と「ゆっくり」「たのしく」の理念の下に一緒に過ごしなが、会話を大切にし、一人ひとりの活躍の場を設けるなど、利用者から学んだり支えあう関係づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に、管理者や職員は、本人の思いや家族の意向、生活歴等を聞き取っている。また、利用開始後も、ケアマネジャー同席の上で本人や家族と話し合うなど、利用者本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりへの職員担当制をとってモニタリングを行うとともに、必要に応じて、本人、家族、関係者と話し合い、スタッフ会議等で検討するなど、ケアマネジャーと職員の連携の下、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月毎に見直しを行っている。また、利用者の状況に変化が生じた場合は、本人や家族、必要な関係者と話し合いながら、ケアマネジャーと職員が協議し、新たな計画を作成し、現状に即した対応をしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、買い物、知人宅訪問など、利用者一人ひとりの希望を採り入れ、できる限り柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前からのかかりつけ医に、継続して受診するよう支援している。また、職員は、自ら不調を訴えられない利用者へも、常に体調を観察しながら、適切な受診につなげるよう努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けたあり方を、家族や主治医等と早い段階で相談し、職員間で共有しながら、家族等の希望に沿ったできる限りの支援に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの人格を尊重するよう心がけており、丁寧な呼びかけや訪室の際には了承を得るなど、対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にし、その日の希望や状態に沿った支援をしている。また、事業所での決まりごとなどは、利用者が納得のいくように説明している。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みや状態を把握しながら、それぞれにあった食事の提供を心がけているとともに、職員と利用者は、和気あいあいと一緒に食事を摂っている。また、利用者は、それぞれの力にあわせ、率先して食事の準備や後片付け等を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット毎に、日中週3回から毎日の入浴を支援しており、一人ひとりの希望や状態に合わせて、無理強いすることのないよう配慮しながら、入浴支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、食事の後片付け、掃除の手伝い、庭の手入れ等、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、友人宅訪問、散歩など、利用者一人ひとりの希望や状態に応じた外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や、日中は玄関に鍵をかけないケアに取り組んでおり、玄関にはブザーを設置して、出入りを確認できるよう工夫している。また、玄関を施錠する場合は、家族の了承を得ている。		

外部評価	自己評価	項目		○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年2回消防署指導の下、職員と利用者が一緒に行っている。また、夜間を想定した訓練も、近隣住民の参加、協力を得ながら実施している。	○	今後は、避難訓練時のみならず、日ごろのつきあいの中で、近隣住民と日常的に協力し合える体制づくりに取り組むことを期待する。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの食事や水分摂取量をチェックし、栄養の確保に努めている。また、主治医と相談しながら、低栄養の場合は、栄養補助食品を補給するなどの支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、採光や音、換気等に配慮し、清潔でゆったりと住みやすい環境となっている。また、花や季節毎の飾り付けをし、行事の写真や利用者の手作り品を飾るなど、生活感や季節感を採り入れて、居心地のいい空間となるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた家具や仏壇、テレビ、生活用品等を持ち込んでおり、本人や家族と相談しながら、くつろいで過ごせる居室となるよう工夫をしている。		

※  は、重点項目。